

橋の展覧会

隅田川には 28 橋の道路橋と 7 橋の鉄道橋が架かっており、そのすがたがバリエーションに富んでいることから「橋の展覧会」とたとえられています。

なかでも有名なのは、震災復興橋梁です。国は、震災復興事業のために復興局を臨時で設置し、復興計画をリードすることにしました。そして、リーダーには太田圓三と田中豊という鉄道省出身者をあてました。彼らを採用したのは、当時国内で最高の土木技術者は、鉄道省に集まっていたからです。

彼らは、若い橋梁技術者に対し新しい構造や工法への挑戦を促す、新設する橋梁の名称を公募する、親柱に刻む橋名の題字を書家にまかせるなど、これまでなかった発想で計画を進めていきます。

復興橋梁は、東京市域で新たに架設する橋を中心に 6 橋（相生橋、永代橋、清洲橋、蔵前橋、駒形橋、言問橋）を復興局が施工、東京市は架け替えを中心とした 3 橋（両国橋、厩橋、吾妻橋）を施工することになりました。

復興局が隅田川に架けた橋は、すべて違う構造となっています。田中は後に、①すべて同じ構造であれば、同じ速さで老朽化し、同じ時期に壊れ、大きな地震があった場合すべて被災してしまう、②多様な構造の橋に関わることで、若手技術者の技術力向上を促し、橋梁技術全体の進歩に寄与する、と語っています。田中の発言どおり、日本の橋梁技術はこの復興事業を通じて飛躍的に進歩しました。

※相生橋は老朽化等により、架け替えられており、当時架設された復興橋梁ではありません。